

歴史を生かしたまちづくり  
**横濱新聞**

第19号

平成17(2005)年3月25日発行  
 企画編集・発行：横浜市：横浜市歴史資産調査会  
 事務局：財団法人はまぎん産業文化振興財団内  
 〒220-8611 横浜西区みなとみらい3-1-1  
 TEL.045-225-2171 FAX.045-225-2172



横浜松坂屋本館(旧野澤屋) 写真撮影：米山淳一

**横浜市認定歴史的建造物に、伊勢佐木町のデパート建築や震災復興橋梁など4件を認定**

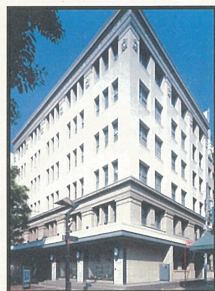
平成16年度は、伊勢佐木町の繁栄を物語る2件のデパート建築と、震災復興期の2件の鉄筋コンクリート・アーチ橋を認定し、認定件数は70件となった。



**横浜松坂屋本館(旧野澤屋)**

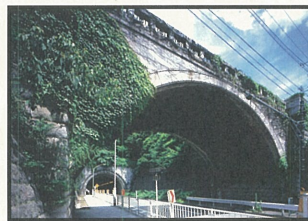
大正10(1921)年に建てられた、戦前の希少なデパート建築である。伊勢佐木町通り側の外壁などにアール・デコのデコ的なテラコッタ製の装飾をもつ外部意匠は昭和9年増築時のものを基本とするが、躯体の一部に創建時のものを残しており、大変貴重である。教育者としても大きな足跡を残している建築家、鈴木禎次の晩年の大作。

平成17年1月から外壁改修工事が行われ、3月にリニューアルオープン。これを記念して横浜市認定歴史的建造物写真展が開催された。



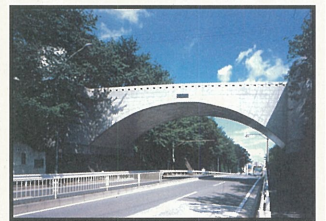
**旧横浜松坂屋西館**

本館とともに市内に残るただ二つの戦前のデパート建築である。昭和6(1931)年に建築された。本館など同時代のわが国のデパート建築がアール・デコのスタイルを盛んに取り入れているのと対照的に外部意匠はクラシックでやや保守的であり、その点でも希少である。平成12(2000)年に「エグゼル伊勢佐木」としてリニューアルオープンした。



**桜道橋**

昭和3(1928)年、市内最大級の震災復興興事業として山手隧道や石横擁壁とともに建造された。復興のシンボルともいえる。橋と隧道の意匠が調和するように一体的にデザインされており、本牧地区から関内地区へのゲートとして、重厚な空間を形成している。



**電橋**

現在の露橋は、震災復興事業として昭和3(1928)年に建造された二代目のものである。歩道橋としての機能を兼ねるため両側に階段を配置するプランが特徴的。同時期に建造された公衆便所や初代創建時のレンガ壁・門柱と合わせ、大正から昭和にかけての機能と美しさを兼ね備えた公共土木施設としての歴史的景観がよく残されている。

# 蘇るテラコッタの 「生色」

吉田鋼市 (横浜国立大学大学院教授  
横浜市歴史的資産調査委員会)

横浜松坂屋の本館と旧西館。現在は日本競馬協会の施設エクスセル伊勢佐木に貸与されているが、そのついでに認定歴史的建造物になった。戦前のデパート建築の横浜におけるたつた二つの生き残りである。旧西館は少し前に改修を終えていたが、本館も今春、ファサードの洗浄が終わって、思っていたテラコッタとタイルが当初の色を取り戻した。タイル自体も通常の四倍大の四丁掛けタイルという大きなものだが、テラコッタはさらにずっと大きく、しかも立体的・彫刻的なもので、近くで見ると圧倒される。そして、その「生色り色」というか「アポロリ」(象牙色)というか白色系の色は、白磁のように気品に富んでおり、時間の経過がさらに微妙な魅力を加味している。旧西館が控えて目で見ると、本館は華やかな衣装をまとった貴婦人のよう。化粧直しをした「マダム・アポロリ」というところである。

本館の創建は大正十年だが、その後増改築を重ねている。そして創建時のものをはじめ各時期の遺構を残してはいるが、今日の伊勢佐木町側のファサードは昭和九年のもの。したがって現在の外観の意匠の大部分は昭和九年のものである。このファサードの最大の特徴は、五・六階の半円アーチ窓列とそのまわりのテラコッタによる装飾。テラコッタの意匠はクラシックな要素もあるが、全体としてアル・デコの雰囲気も感じられるものである。内部にもエレベーターの表示板、階段室の階数表示板を始め、アル・デコの造形が散見され、それらを生かすような内装が意図されている。わが国の戦前のデパート建築を代表するものの一つとしてよいだろう。設計は夏目漱石の義兄弟(双方の妻が姉妹)として知られる鈴木禎次で、施工は竹中工務店。一方の旧西館は昭和六年の竣工になるもので、これはオーソドックスなクラシックの意匠である。設計・施工はいずれも大林組。

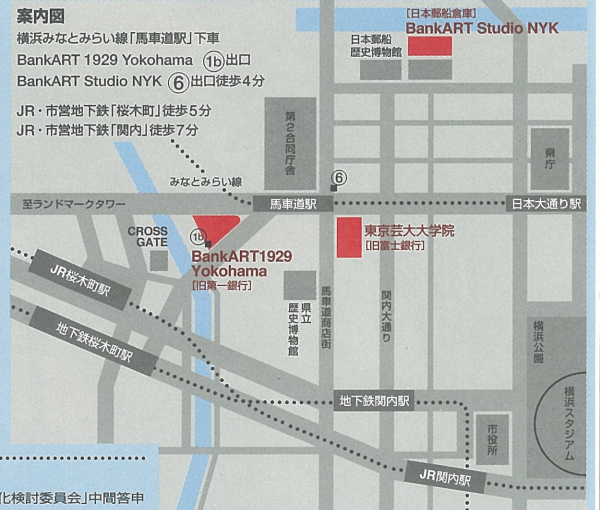
さて、この二つの建物は、横浜における戦前のデパート建築の希少な、しかも意匠のタイドの異なる生き残りであり、建物そのものが貴重であることは言うまでもない。しかし、それに加えて、この二つの建物は横浜の大規模商店の歴史が集中的に刻印されているのである。本館は当初、野澤屋洋服店として建てられていたが、その後、野澤屋ノザワ松坂屋、横浜松坂屋と名前を変えている。旧西館はもと複雑で、当初は越前屋百貨店、その後横浜松坂屋西館となるまで、山越、鶴屋、壽百貨店、松屋としは名を変えていた。野澤屋は幕末の元治元年に豪商茂木惣兵衛が創業した横濱ついで老舗。鶴屋も明治二年、越前屋も明治十六年の創業といずれも老舗要するに、この二つの建物を核にして、ハマの百貨店の歴史は展開したのであり、この二つは近代横浜の商業史を雄弁に物語る史跡なのである。

## 都心部の歴史的建造物等を活用した 文化芸術活動を展開

横浜市では平成15年度から、みなとみらい線馬車道駅周辺地域において、横浜都心部の歴史的建築物、倉庫等を活用し、文化芸術・観光振興の視点から都心部の活性化を目的に、実験事業を進めている。

横浜市認定歴史的建造物である旧第一銀行と旧富士銀行を活用して、文化・芸術活動を提案、実践する団体(事業運営団体)を平成15年10月に公募し、「STスポット横浜」及び「YCCOプロジェクト」の2団体が、事業運営団体として選考され、「BankART (バンクアート) 1929」として活動している。現在は、旧富士銀行が東京芸術大学大学院のキャンパスとなったため、活動場所を日本郵船倉庫に移し、旧第一銀行とあわせて2施設で実験事業を展開している。

歴史的建築物や倉庫の空間特性である高い天井や歴史を感じさせる柱などを活かして、演劇やダンス、作品展示など質の高いアートを実施し、市民や専門家から高い評価をえている。このような個性的な空間の利用は全国的にも珍しくアーティストやクリエイターの創造性を刺激するようだ。施設には、発表・展示空間のほかにスタジオ機能を積極的に設け、アーティストが長期滞在しながら創作活動に取り組み、ここから横浜発の情報を発信している。また、施設は誰でも自由に見学でき、市民とアーティストやアーティスト同士の交流の場としてカフェやパブコーナーを設けるなど様々なユニークな試みをしている。



### 実験事業の概要

#### ●活用対象歴史的建築物等

- 旧第一銀行横浜支店(中区本町6-50-1)
- 旧富士銀行横浜支店(中区本町4-44)(平成16年12月まで活用)
- 日本郵船倉庫(中区海岸通3-9)(平成17年1月から活用)

#### ●実験期間…平成16年2月～平成18年3月末



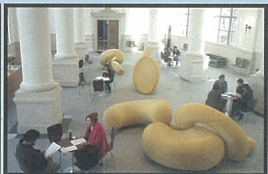
旧富士銀行(外部)



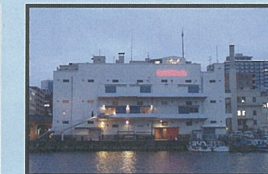
旧富士銀行(内部)



旧第一銀行(外部)



旧第一銀行(内部)



日本郵船倉庫(外部)



日本郵船倉庫(内部)

#### ●経過

- 平成15年 3月 「文化芸術・観光振興による都心部活性化検討委員会」中間啓申
- 平成15年10月 運営団体を公募(24団体からの応募があった)
- 平成15年12月 運営団体を選考  
(「STスポット横浜」と「YCCOプロジェクト」が連携して事業運営を行うことを条件に選考された)
- 平成16年 2月 選考2団体が事業運営団体「BankART 1929」を結成
- 3月 BankART 1929 Yokohama (旧第一銀行)と BankART 1929 馬車道(旧富士銀行)で実験事業がスタート
- 12月 旧富士銀行での活動終了
- 平成17年 1月 BankART Studio NYK (日本郵船倉庫)がオープン
- 平成17年 4月 旧富士銀行に東京芸術大学大学院「映像研究科」が開校

●BankART 1929 「BankART 1929」は横浜市が推進する「都心部の歴史的建造物等を活用した文化芸術実験事業」の実施団体である。BankART(バンクアート)とは1929年に建築されたふたつの元銀行(Bank)を文化芸術(ART)の実験事業に活用するという意味の造語である。活動内容やイベント情報の問い合わせ先 TEL:045-663-2812 FAX:045-663-2813 http://bankart1929.com

### 実験事業はナショナルアートパーク構想のリーディングプロジェクト

横浜市では、芸術や文化が持つ「創造性」を活かして、都市の新しい価値や魅力を生み出すために、文化芸術・観光の振興といったソフト施策と、横浜らしい魅力的な都市空間形成といったハード施策を融合させた新しい都市ビジョン「文化芸術創造都市(クリエイティブシティ・ヨコハマ)」を掲げている。

その戦略的プロジェクトの一つが「ナショナルアートパーク構想」である。これは、横浜の最大の空間的魅力である都心のウォーターフロントにおいて、歴史や文化を活かしながら国内外から集客できるような国際的な文化観光交流ゾーンの形成を目指すものである。

その重点地区の一つとして、みなとみらい線馬車道駅周辺エリアを「クリエイティブコア(馬車道創造界隈)」として位置づけ、地区内の歴史的建築物や倉庫、空きオフィス等を活用して、アーティストやクリエイターが創作・発表し、滞在・居住するなど創造的な活動を発信する施策を展開している。現在、リーディングプロジェクトとしてBankART 1929による実験事業が進められており、平成17年4月からは東京芸術大学大学院映像研究科の活動も始まる。

### 東京芸術大学大学院映像研究科が開校

平成17年4月、旧富士銀行(横浜市中区本町4-44)が東京芸術大学大学院映像研究科映画専攻キャンパスとして開校する。

#### ●映画専攻の概要

国際的に流通する物語を基礎とした映像作品を創造するクリエイター、及び高度な専門知識と芸術性を併せ持つ映画制作技術者を育成することを目的とし、映画専攻長には北野 武氏を教授として迎える。

平成18年度からは、新港客船ターミナルをキャンパスとしてアニメーション専攻、メディア専攻が順次開校を予定している。



東京芸術大学大学院映像研究科(内部)

### 横浜山手聖公会が火災により被害

平成17年1月4日に中区山手町の横浜山手聖公会から出火し、聖堂の屋根、内廊等が焼失した。横浜山手聖公会は、昭和6年(1931年)に建てられたJ.H.モーガン設計の教会であり、平成2年3月に横浜市の歴史的建造物に認定されている。教会では一刻も早い復興を願い、火災直後から修復に向けて専門機関による調査や横浜市との協議を重ねてきた。横浜市の歴史的景観保全委員である関東学院大学関和明教授の指導のもと、修復設計をまとめ、教会は年内の復興を目指している。

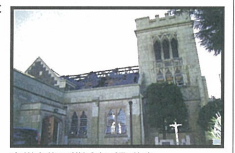
なお、修復費用に充てるため、山手聖公会では信者のほか市民にも募金を呼びかけている。

#### ●問い合わせ先

横浜山手聖公会 (Tel:045-622-0228)  
(司祭:岡野保信、募金担当者:根谷崎武彦)

#### ●募金振込先

郵便振替口座:00240-2-41961  
日本聖公会 横浜山手聖公会



火災直後の横浜山手聖公会

### 「都市の記憶」(改訂版)発行

横浜市歴史的資産調査会では「都市の記憶-横浜の主要歴史的建造物-」の改訂版を(H16.9)した。今回の改訂版には新たな認定歴史的建造物等17件が加わり、持ち歩きに便利な歴史的建造物マップもついている。横浜市役所1階市民情報センター、有隣堂各店舗等にて500円で販売中。